

令和6年度旭川市在宅医療及び介護連携推進検討会

「看取りの場面」検討ワーキンググループ 開催結果及び意見集約結果

- ・日時

令和6年4月11日（木曜日） 午後6時30分から午後8時まで

- ・場所

旭川市総合庁舎7階 多目的室

- ・出席者

参加者6名（青木氏、今本氏、植木氏、柏葉氏、酒元氏、下間氏）※50音順
事務局5名（長寿社会課地域支援係 2名、旭川市保健所保健総務課 1名、
市立旭川病院地域医療連携課 1名）

- ・欠席者 0名

- ・傍聴者 0名

1 開会の挨拶（事務局）

2 議事（※意見集約結果 別紙）

（1）前回の振り返り

（2）「看取りの場面」における検討

ア 「看取りの場面」で考慮すべき視点

イ 意志表出に係るグループワーク

他都市で作成されたシートを用いながら、「自ら望む医療や介護」に関する意志表出について確認する。

ウ 医療費等の費用について

3 連絡事項

○前回からの振り返り

- ・(とくに介護領域の)人材不足。担い手の不足
 - ・専門職の関心の不足, 認識の不足
 - ・市民の「看取り」のイメージ
 - ・ACPの広がり不足
 - ・在宅医療にかかる費用について
- } 今回はこの部分をテーマとした

○「看取りの場面」で考慮すべき視点

- ・(人生の最終段階において)多様な選択肢があること。選べることがわかること
- ・日頃から, 身近なところでその選択肢に触れる機会があることこそ大事
- ・利用者家族の思いや価値観について。状況の変化により, 迷いが出ることも

○グループワーク(広島県地域保健対策協議会作成のシートを用いながら)

- ・希望や思いを選択肢として提示されているのは, 選びやすい
- ・病気についての説明は, 本人の希望もそうだが, 本人が理解できる状況にあるか?ということも考慮が必要
- ・一人で, トイレで用を足せなくなったり, 食事が摂れなくなったりすることで, 施設へ入るという考え方は, 固定観念のように思われる
- ・できなければだめというのは, 設問としては厳しいように思われる
- ・どこで療養したいか?という設問は, 病気の影響を受けやすく, 病状で答え方がかわるのではないか。がんターミナルだったら, 心不全だったら…
- ・病気にかかり, 病院に入るという漠然としたイメージは皆がもっている。でも入院した後のイメージはあまり持っていないのではないか。
- ・その人がおかれた状況で答え方が変わることが前提にあるべき。
- ・患者の「(家族に)迷惑をかけたくない」という考えも尊重するが, 必要な時には家族の援助を受けてもよいという考えもあってよいのではないか。
- ・たとえば「ごはんをたべたら元気になる」といって本人に無理をさせるようなことがしばしばみられるような家族の方に, 介護の意欲をそぐような説明をするときは, どうしたらよいか悩んでしまう。

- ・利用者に思いを書いてもらおうとしたとき, 年齢によっては, 記入が困難。シンプルにできるとよい。
- ・実際に作る場面がきたときは, 複数の方にみてもらい, 固定観念にとらわれない自由な記述がよい。
- ・選択肢の中から選ぶことも難しい方もいれば, 自由記述が難しい方もいる。日々の支援時に口頭で述べる内容を, 記録しつなげていくと, 振り返るときにその方の

理解を深めることができる。

- ・ヘルパーさんがつける記録は、法的にも有効なほど、証拠能力がある。
- ・本人と家族の考え方の差は、内容によっては解決できないこともある。
- ・身内の援助を「迷惑」というのは違うのではないか。

○自己発信ツールの考え方や、つながり手帳の活用などについて

- ・書くものが多数あるので集約できないか。
- ・たとえば愛別町の手帳、あいべつつながり手帳には、終活の内容を書く欄がある。菩提寺の内容など。
- ・ちょっとした場所に行けることがよい。「書くこと」に関心が向くことがよい。
- ・そもそも、「人生の最終段階」を考えるにあたり、危機感ある方ない方で、準備されていることが違う

・つながり手帳の使い方を伝えと、(窓口などに)もってきてくれることが多い。

・つながり手帳の使われ方は、その交付を受けた時点での主治医がどのように働きかけていたかによる。

・つながり手帳に、希望する医療や介護など、自身の希望を記載する別紙をはさみ、すそ野をひろげてみてはどうか。SWが案内し別紙の説明をしていくことで、活用が見込めないか。

・つながり手帳を「自分を知ってもらう」ツールとしての活用方法の検討はできないか。

- ・生計中心者のトラブル時等で家族の情報が取り出せるようにならないか。
- ・在宅医療・介護ガイドブックやいきいき長寿など、既存のパンフレットの活用ができないか。記載欄を用意するなど
- ・もしもの時の安心カードにも、介護事業者や、知ってもらいたいことなどを書く欄がある
- ・それらも含めて、もしもの時について話合うきっかけづくりになるとよい
- ・つながり手帳は医療側にメリットが薄いツールではないか
- ・つながり手帳をもってきてもらうことによる活用の幅を考える必要があるか

○医療費の説明について

- ・報酬体系が多岐にわたる。
- ・実態としては、訪問看護や訪問薬剤師のほうが高価になりやすい。
- ・医療も介護も制度や内容を説明できるのはケアマネジャーになるが、実際にできる方は少ない

- ・退院後の医療費の説明は入院中の医療機関でも行っている。標準負担限度額, 高額療養費の説明を行っているのだが, 実は正しく理解されていないのではないか。
- ・介護保険のサービスについては, ケアマネジャーへ尋ねるように案内していることが多い。